

泉 いずみ

―目次―

表紙 「でらボラ発表会」三頁参照

百折不撓 野呂大悟

伝えるから伝わるへ 野呂美道

供養のありかた 野呂美道

望郷・銀河鉄道 野呂美道

連載「私の出会った神様たち⑳」

ともに歩み 命に寄り添う② 浄香

掲示板・お知らせなど



撮影：大河内真慈さん

被災地の 酷暑を思い 発表す 宗明

暑い日々が続いています。最近の夏は「暑い」ではなく「熱い」という漢字のほうがしっくりくるような酷暑ですね。昼間に車に乗ると、ハンドルが熱くてろくに持てない事ってありませんか？ あれって、危ないですよ。熱中症といい、色々な危険がある酷暑。気を付けて、無理をせずに乗り越えたいですね。

さて、先日から安泉寺の本堂を利用して、ヨガ体験を始めました。クリスタルボウルヒーリング（水晶のボウルを鳴らして、音による癒し体験）も併せた体験教室を月に一回ペースで始めました。ヨガって初めて体験しました。なかなか、奥が深そうな感じがしました。体が硬い私にとつて、一つひとつの動きが上手く出来ずに、うとつとか言いながらやっていました。大切なのは「意識する」ことだそうです。今自分が何をやっているのか、体のどこの部分がどうなっているかということに意識を集中させること。

しかし、それが何ととっても難しい。目をつむりながら、一生懸命意識しようと思しますが、「来週の仕事はこうやってああやって」とか、「夕飯はあれが食いたいな」とか、意識しようと思えば思うほど、全然関係ないことが頭の中をグルグルと巡ります。最終的には、目をうつすら開けて、「本当にみんな意識を集中できてるのかな」と他人が気になる始末…。

仏教でいう意識とは、六つの「識（心の主たるもの）」の一つ。色や形を見分ける心を「眼識」。音を聞き分ける心を「耳識」。匂いを嗅ぎ分ける心を「鼻識」。味を見分ける心を「舌識」。寒いとか暖かいとか、痛いとか心地よいとかを感じる心を「身識」。ここまでの五つの心は、色々と感じる事ができるので、記憶したり、考えることはできません。そこで登場するのが「意識」です。意識とは、五つの心を統制して、記憶することや考えること、判断したり命令したりすることです。なるほど！とは思いますが、ヨガで体感したように、私の意識は、統制すら出来ないのが事実。頭では分かっているが、止められない。それは、別の何か強い力によって動かされているのかもしれない。まだヨガ体験は続きます。みなさんもお時間あれば是非どうぞ！

～安泉寺で行う癒しの体験会～

クリスタルボウルヒーリング& ヨガ体験会



講師：田所幸恵さん
ヨガセラピスト

クリスタルボウルとは
・水晶でできたリラクゼーション効果が高い器具の楽器！(水晶は99.992%の含有量といわれ、心地よい澄んだ音色を一度に多くの方に伝えることができ、非常にリラクゼーション効果が高いことが特徴です)
・音波をリラクゼーションさせ、脳や心のノイズを払い出し状態へと導く。
・血行促進、自律神経系、胃腸の働きや腎機能を良くする・血圧がサラサラになるなど効果が高いと書かれています。

月に1回実施（基本第2土曜日午後）

◆開催日時◆
第1回 7月22日（土）13:00-15:00
第2回 9月 9日（土）13:00-15:00
第3回 10月14日（土）13:00-15:00
第4回 11月11日（土）13:00-15:00
第5回 12月23日（土）13:00-15:00
*都合の良い日に来ればOKです！もちろん毎回参加も大歓迎！

◆場所◆
安泉寺本堂
(愛知県愛西市三和町中ノ割173-1)

◆持ち物◆
ヨガマット（バスタオルでも可）
飲み物
動きやすい格好

定員：先着15名

◆申込みとお問合せ◆
安泉寺住職野呂 (080-3628-1736) まで
または、QRコードを読み取りお申し込みください！

参加費
大人（18歳以上）
2,500円/1回
子ども
（小学生以上高校生以下）
1,000円/1回
参加するときにお支払いください！
*小学生未満はご参加いただけません



申込は080-3628-1736（住職まで）

◆七月二十四日、東別院・教務所・議事堂で、でらボラ名古屋総会が行われた。でらボラとは、どえりやー(すごい)ボランティアという意味だ。会員六十五名程もいて、総会出席者はなんと十数名、委任状を含めて、やっと過半数という現状だ。◆震災後、名古屋教区の若手の僧侶を中心に、誰でも参加できる、ゆるい会が発足した。しかし、十二年過ぎで、先細りの状況に、私は驚いた。◆いつ、東南海地震が起こっても不思議でないこの時に、会がやせ細ってなるものか！私は奮い立って、会を活性化する手立てを考えた。◆高校生たちが、被災地研修をする時に、でらボラから絶大な支援を受けている。おかげで、最小の費用で最大の効果を上げる研修となっている。そのご恩に報いるためにも、私たち安泉寺ハザード会が取り組んできた経緯を皆さんに披露することとなった。◆総会が終わって、帰る人もいる中で、果たして講演会が成り立つんだらうかと心配した。(これは私がすることではなく、主催者がすることだが...)しかし、いざ始めてみると、数十人の参加で、講演会はまずまずの観客だった。◆映像を交えて約五十分間の講演は、率直に言って、大成功だった！藤井委員長の話、「期待の何倍も良かった！」高校生二人(一人はコロナで欠)大人三人で、シナリオに基づく映像一五八カットを説明しきった。◆あとの質疑応答でも、二人の高校生は、堂々と、ゆっくり、自分たちの想いを述べてくれた。◆私は最

後に述べた。「愛西市の六校の中学三年生全員が修学旅行のコースに被災地研修を取り入れて、今年から実施しました。市は数千万円の補助金を出して、生徒たちに、被災地での学びを重視してくれました。十数年かかって、やっと市も、私たちのささやかな活動に目を向けてくれたんだと、感激しています」◆私たちは長年、このような活動が伝わっていかないことに、焦燥感を深めていった。大人は分かってくれない、生徒たちもそのように感じていたに違いない。でも、そうではなかった。◆伝えるのではない、**伝えることこそ、大切なことだと！それは、躍起になっている時には分からないことなのだ。**しかし、いつかは分かってもらえる時が必ず来る。そう信じていたからこそ、実現できたのだ。多くの人たちに感謝を込めて、お礼を言いたい。有難うございました！

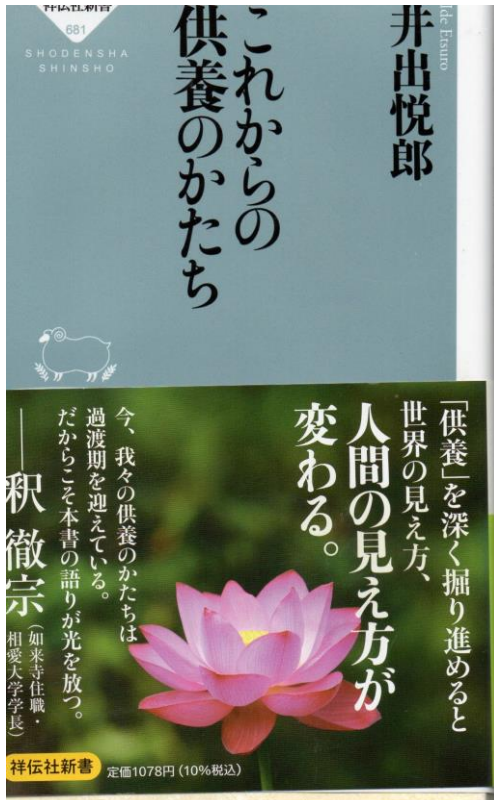
ハザード委員の発表の様子



◆私が尊敬するお寺さんから、「これからの供養のかたち」（井出悦郎著・祥伝社新書）という本を受け取った。現代において、供養のかたちが様変わりしている現状を分析し、今に合った本来の供養のあり方を提示している本だ。◆この中で、靈魂のあり方を述べている箇所があるが、私はそれは何とも答えられない。あるかも知れないし、ないかも知れない。私は、あまりそのことにこだわる必要はないと考えている。◆したがって、霊を鎮めるために、こちらから色々と手を差し伸べて行うことが、実は本来の供養ではないと考えている。◆お盆になると、仏壇の前に走馬灯の提灯をつけ、野菜の馬で先祖を迎え、ご馳走を並べ、野菜の牛で先祖を送る風習がある。真宗大谷派ではそれは行わないが、遺族が先祖を思う気持ちは私も大切にしたいし、よくわかる。◆ご先祖は亡くなる時に何を願って浄土に旅だつたか。私は「子孫が幸せに生きる」ことを何より願って亡くなっていくと確信する。子や孫の幸せを願わない親がいようか。私は、お盆や、葬儀や、もろもろの供養を、先祖が願って先立って行った、そのこととにどれだけ、私たちが応えているかを確認する場だと思っている。◆先祖を思うなら、先祖が残していったメッセージを私たちがしっかりと受け止めるべきだ。そのことを仏壇の前で感じ取ることが何よりの供養だと考えている。◆葬儀が家族葬に移行して久しい。以前の密葬が家族葬にあたる。その後、本葬が行われるが、これはお世話になった人たちへのお別れの儀式だ。今では、偲ぶ会などと、

友人知人が集まる場を設けることもある。◆私が勧める葬儀は、寺葬である。葬儀屋に行く前に安泉寺に相談してほしい。葬儀のすべてを安泉寺が仕切る。決して葬儀屋の言いなりになってはいけない。あとで、「結構ぼられた！」という嘆息を聞く。◆誰もが、「良い葬儀だった。」と感想を述べてもらう葬儀を目指して、私たち、安泉寺の全員が心を尽くすことを約束したい。◆誰にとつても、納得のゆく葬儀を、遺族の方とも平生から相談しながら進めていきたい。◆供養というのは、先祖を思う遺族と、亡き人とが心を通わせる場ではなくてはならない。また、大勢のお世話になった人々とも、気持ちを分け合う場ではなくてはならない。先祖は遺族だけのものではない。大勢の人々とのかわりの中で先祖となったのだ。

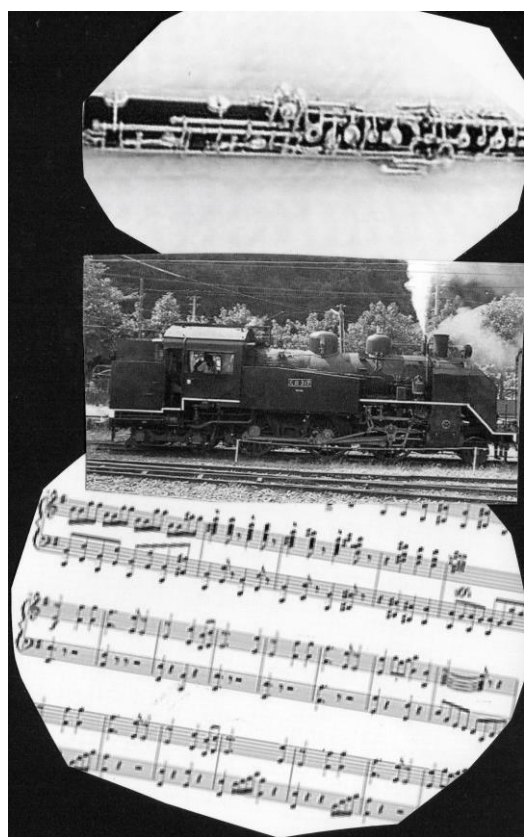
井出悦郎著 「これからの供養のかたち」 祥伝社出版



◆私の趣味の一つが音楽鑑賞。恥ずかしながら（？）古典音楽だ。先日、音楽番組を視ていて、有名な交響曲「新世界から」にまつわる、面白い話を聞いた。作曲者のドボルザークは、無類の鉄道お宅だった。貨車の異音に気付いて鉄道会社に忠告し、あわや大惨事に至る事故を未然に防いだこともある。

◆「新世界から」の第4楽章の盛り上がり箇所、ジャージャン、ジャージャン、ジャージャン、ジャージャン、ジャージャン、ジャージャン、ジャージャン、ジャージャン……のクライマックスは、どう考えても蒸気機関車デゴイチが発車して加速する情景描写そのものである。◆ドボルザーク（略してドボちゃん）はチェコスロバキア（略してチェコ）の優れた作曲家だ。私たちが良く耳にするモルダウを作曲したスメタナはその先輩。ドボちゃんのメロディーとリズムはチェコの民族音楽に基づいた親しみやすさと甘みさで、世界中の人々を魅了し続けている。◆ドボちゃんはその才能を認められて、アメリカに招聘され、音楽教師として身を投じることになる。アメリカに残る黒人音楽にも影響され、ドボちゃんはますます作曲生活を充実させてゆく。◆しかしながら、ドボちゃんは、次第に憂鬱になってゆく。なぜか？それはホームシックになってしまったからだ。新世界は刺激に溢れた夢の国かも知れないけれど、ドボちゃんは祖国チェコへの望郷の念がますます湧いてきて、矢も盾もたまらなくなってきてきた。◆その思いを込めた名曲が、弦楽四重奏曲「アメリカ」であり、「チェロ協奏曲」であり、

「新世界から」である。どの曲も「愛しのチェコ！」と叫んでいる。◆皆さんは「から」に注目してほしい。ドボちゃんはアメリカから遠く祖国チェコを想い、その思いがこれらの名曲を誕生させた。◆番組でゲスト出演の「C字工事」が、有名な新世界からの第二楽章（俗に「家路」のタイトルで有名）のソロ演奏の楽器「イングリッシュホルン」のデザインが、その動輪の部分と酷似していることを指摘した。私はその直感力に驚嘆した。◆そうなのだ！ドボちゃんは一刻も早くチェコに帰りたいかった。船では何か月もかかるだろう。どうすれば、もっと早く祖国の土を踏めるのか？◆夢の中で、ドボちゃんはS高速列車に乗って祖国に帰った事だろう。どんな鉄道かって？……それは、もちろん「銀河鉄道」に決まっている！



百八十度の転回②

◆むしろそういうことよりも、人間として一番大切なこと、人間の教育というか、愛情の教育というか、母の厳しい、憎まれても恐れない、その子供があと来た人に愛されるためには憎まれてもかまわないという強い愛情を僕は学んでおります。なまじつかな教育よりも大事なものを学んでいると僕は思います。◆僕は二人の子供の父親でございます。僕は二人の子供を育てますのに、いつも母のことを思いながら育てています。◆親は子供に憎まれたくないということがございますね。子供に愛されたい、好かれたいというのがやはり僕にもあります。しかし、ただ好かれていただけでは子供のためにはならないと思つたとき、子供に憎まれてもこのことは通そう、ということがありました。◆僕が負けそうになりますと、僕の母はそうではなかったではないか。僕に憎まれることをあんなに恐れずに、子供のために頑張つて、死んでいった人ではないだろうか。それならば僕が自分の子供にできないはずはないのではないかと、自分で言い聞かせました。◆子育てのとき、ここだということがありますね。ここで子供に負けてはいけないということがあると思ひます。子供のわがままを通したほうが、子供は救われるということがあるかも知れませんが、

が、長い将来には子供のためにならないということがあるかも知れません。◆そういうときに強くなれるかどうか、親の境目です。これが本当に子供のことを思っているかどうかということですね。◆簡単に負けてしまつて、子供が喜んでいけばいい、いいお父さんお母さんでいけばいいでは、本当に子供を愛したことになるかどうかということをしみじみ考えながら、僕は二人の子供を育ててまいりました。◆二人の子供が立派になったとは思いませんけれども、それぞれに不服はあるとは思いますが、何とかやってみてまいりました。◆いま、まだ、母と、家政婦のおばさんと、たつた二人しか出てきませんね。私の出会った神様は。◆もう少し時間がありますから、あと一人ぐらい紹介できると思います。(続く)



ともに歩み、命に寄り添う

第二回 正解のない命の選択

きよ
か
浄香

我が家の一日の始まりは「朝ごはんできたよ」の声。声の主はもちろん……父。母を亡くしてから、父と二人暮らし。仕事人間で家のことは母任せだった父ですが、実はお料理からお裁縫まで何でもできるスーパー父さんでした。私はもっぱらお掃除担当で、日々、父と穏やかに楽しく過ごしていました。

ところが、ある日突然、帰宅した父から「一人になる覚悟をしなさい」と言われたのです。専門病院の検査で父の肝臓に腫瘍が見つかり、「すぐに入院して開腹手術をし、肝臓を切除する」と言われたからでした。当時、父は六十九歳。事の重大さに私は「はい、そうですか」とは言えません。父と相談し、総合病院で診ていただくことに。もちろん紹介状はありません。延々と待って、お医者さまから「最初の病院の検査結果を持ってくるか、この病院で一から検査して判断するか。検査は早くて一カ月後」と言われました。腫瘍があると言われているのに一カ月なんてとても待てません。そこで、原点回帰して、地元のかかりつけの先生にご相談することにしましたのです。すると、「切除することなく肝臓がんを克服した知り合いの医者がいる。一度、話を聞いたらどうか」とのこと。そこで、今度は父と一緒にその先生の病院へ。お聞きすると、「腫瘍の中に電極針を挿入しラジオ波電流を流してがん細胞を死滅させるラジオ波焼灼術治療があり、日本では八年前の一九九九年頃から臨床使用されている新しい治療法。開腹手術ではないため入院期

間が短く、身体への負担も軽い」と説明を受けました。その治療をしている大病院に紹介状を書いていただくためには、画像データが必要とのこと、すぐに検査可能な病院を紹介していただきました。ところが、検査結果は、「肝臓に何かがあるのは間違いないが、悪性ではない可能性がある」とのこと。念のための再検査で、今度は他県のPET検査センターへ。PETとは、がんの有無、位置や広がりや診断する検査で、結果は「がんの反応が見られない」という意外なものでした。

違う医療機関の医師に意見を求める「セカンドオピニオン」という制度があります。「病院や医師によって、診断がこうも違うものなのか」と驚きました。最初の病院は「肝臓がんで手術をして肝臓を切除する」、別の病院は「そもそも悪性かどうか判定できない」と言います。さて、どちらを信じ、どの治療法を選択するのか。それは、すべて自己責任。命にかかわる究極の選択をしなければなりません。「お父さん……どうする？」と私。これまで仕事をはじめ何においても即断即決してきた父でしたが、答えは「俺では分からない。決めてくれ」でした。お父さ〜ん(泣)。そんな大切なことを私に決めろと？

今度は、フィルムの入った大きな封筒と紹介状を持って、ラジオ波焼灼治療をしている大病院へ。先生にご相談したところ、とても丁寧に分かりやすく治療のメリットとデメリットを説明していただき、「悪性だったと仮定して、父の治療法はラジオ波焼灼治療にします」と私が決めました。結果、無事に治療を終えて、また元気な父との暮らしに戻ることができました。治療にはいつも自己責任を伴う決断を求められます。今はより良い治療法を患者自身が選べる時代になりつつありますが、正解のない命の選択は、これまた難しいものですね。

8月の行事予定

和讃講

一日(火)

暁天講座

一日～五日(東別院)

*別院募金活動

一日・四日

環境保全(看板描き)

九日(水)

おみがき

十九日(土)

手話サークル「サル」

防災講演会(愛西市市民会館) 二十三日(水)

環境保全会(除草剤散布) 二十六日(土)

秋季永代経(荒山淳師) 二十七日(日)

今月の掲示板

平和への道はない
平和こそ道なのだ

マハトマ・ガンジー

先日の沖縄慰霊の日、玉城デニー知事が引用した言葉です。非暴力主義者のガンジーだからこそその言葉です。

訃報

堀田さかえさん 桑名市 享年八十一才

※今回、葬儀を長野県上田市で行いました。往復600キロ超を老僧夫妻が車で行き、執行しました。とても心温まる葬儀でした。後日紹介します。

いずみのほとり

◆今年も「蓮ワーク」が行われました。十月にも実施します。二十三名の参加者がそれぞれ見事な蓮を咲かせてくれました。(老僧)



蓮ワーク参加者の集合写真(安泉寺本堂)